放課後等デイサービス事業所評価集計表

公表：令和3年　4月26日

事業所名　子ども支援事業所　にじいろ きゃんぱす

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	コメント	改善目標、工夫ししている点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースの関係で適切であるか	40%	40%	20%	活動内容や年齢、利用人数に応じて活用しているが、 個別のプログラムの時、もう一つ部屋があればと思う。	パーテンションを設けるなどして、対応している。
	②	職員の配置数は適切であるか	20%	60%	20%	個別の対応がとれるように2名多く、職員を配置して対応している。	個別プログラムの支援を充実していくために職員を採用していく。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	20%	20%	60%	肢体不自由などの身体障害のある利用児を想定した設備等にはなっていない。現在のところ、日常生活動作が自立している児童が大半なので、現状の設備等で支障なく利用できている。	肢体不自由のある利用者に対しては、同敷地内にあり、バリアフリー化されている建物で訓練を行っている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	20%	40%	40%	事業を開始して2年目となり、これまでの取り組みを振り返りながら、環境設定、支援などの業務改善にあたっていっている。	
	⑤	保護者等向けの評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	0%	80%	20%	昨年度（R3,1）に実施したアンケートでは、具体的なニーズを拾えてないので、別途保護者に向けたアンケートの実施を予定している。	今回のアンケートを活かしていく
	⑥	この自己評価の結果を、事業の会報やホームページ等で公開しているか	100%	0%	0%	昨年度（R3,1）に実施した自己評価結果については、ホームページにて公開した。	引き続き、ホームページにて公開していく
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0%	40%	60%	現時点で外部評価を実施していない。	機会があれば実施し、業務改善につなげていきたい。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	60%	20%	20%	「障がい福祉」「障がい」「障がい特性」等について座学を行いながら、日々の支援の中での個々の支援が行えるよう障がい特性を踏まえた行動観察ができるように取り組んでいる。	障がい特性や支援を行っていく上でポイントなどについての研修をOFFJT、OJTで取り組んでいく。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもの保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	60%	20%	20%	日々の活動やモニタリング等にニーズの把握を行いながら計画に反映していっている。	日々の活動から得られた情報から当事業所で対応すべき課題を絞り込み、計画に反映していく
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	0%	60%	40%	利用開始時のアセスメントは、事業所内の共通のものを活用している。 標準化されたアセスメントツールは使用していない。	現時点は必要性をあまり感じていないが、必要であれば、特別な研修を受けずに使用できるSM社会生活能力検査などの使用を検討する
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	60%	40%	0%	適宜、スタッフで話し合いを行っている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	40%	40%	20%	学校休業日には、固定化しないように活動内容、活動場所を検討しながら行っている。	利用者の状況に応じた活動のバリエーションんを増やしていく

適切な支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	20%	40%	40%	4月からの新規利用者、利用回数が少ない利用者などの中には、実態把握が十分でないため課題が明確になっていない利用者もいるが、他の利用者については、明確になった課題に対して試行錯誤しながら取り組んでいる。	個々に応じた課題を設定していく
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	0%	100%	0%	利用者の実態、興味関心等を考えて作成するように心がけている。	日々の活動から得られた情報から当事業所で対応すべき課題を絞り込み、計画に反映していく
	⑮	支援開始間には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	0%	80%	20%	午前中の時間に確認をしている。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	0%	20%	80%	必要に応じておこなっているが、支援終了時は、送迎業務に当たる職員がいるため、全体の共有ができない。共有が必要な件については、翌日などにしている。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	20%	80%	0%	個々の記録は、記録のポイントなど統一できていない面もあるがとっている。モニタリング時に支援の検証、改善につなげている。	必要に応じてモニタリングを行っていきたい。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	80%	20%	0%	定期的（6ケ月）にモニタリングの機会を設け、職員間での共有を行っている。	支援方法、内容が具体的になった利用児については、適宜支援計画に反映していきたい。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	0%	100%	0%	ガイドラインの読み込みが不足している。	ガイドラインの読み込みを行う
関係機関や保護者	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	20%	80%	0%	要請に対して、児童発達支援管理責任者が参加している	開催要請があった場合、参加可能な時間帯であれば、管理者だけでなく対応している職員も参加していきたい
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	80%	20%	0%	年間計画・行事予定の交換、子どもの下校時刻の確認等、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）について適宜行っている。	
	㉒	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	0%	100%	0%	対応なし	新規に対応が必要な児童が利用することになった場合は、適切に行う
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業等との間で情報共有と相互理解に努めているか	20%	60%	20%	新規利用者について、児童発達支援事業所と連携を行っている。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0%	100%	0%	該当者なし	

との連携	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	0%	40%	60%	適宜、北九州市発達障害支援センター　つばさの研修参加や助言を受けるようしている。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0%	20%	80%	行われていない。	
	㉗	（地域自立支援）協議会へ積極的に参加しているか	0%	80%	20%	協議会の子ども部会に参加しており、定期的な会議に参加している。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について、共通理解を持っているか	20%	80%	0%	送迎時や連絡帳を通して行っている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	0%	20%	80%	行っていない	
保護者への説明等	㉚	運営規定、支援の内容、利用者負担について丁寧な説明を行っているか	60%	40%	0%	契約時、児童発達支援管理責任者から保護者へ行っている。	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	40%	60%	0%	連絡帳や電話などで相談をもちかけられた際は、児童発達支援管理責任者が時間を設け、対応している。	必要に応じて対応していく
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0%	20%	80%	現在、行われていないため、親子レクの開催などを通し保護者同士の連携を行っていきたい。	感染状況も考え、来年度は、開催していきたい
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	40%	60%	0%	苦情があった場合は適切に対応できる体制をとっている。	
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	にじいろ きゃんぱすだよりを偶数月に発行し、学校、保護者、関係機関へ配布している。	
	㉟	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	名前の入っているものはシュレッダーにて廃棄したり、書類などを外部に持ち出したりしない。	
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	20%	80%	0%	子どもの特性や性格等を考慮し、対応するように心がけている	
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0%	20%	80%	地域との交流は行われていない	

非常時等の対応	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	0%	20%	80%	マニュアルは策定されているが、周知については検討の余地がある。	
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	60%	40%	0%	年2回、計画的に避難訓練を実施している。	
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	60%	40%	0%	研修の年間計画の中で位置づけている。	
	㊶	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	20%	80%	0%	肢体不自由での抑制、重度知的障害、発達障害での自傷、他害などが想定されない利用者については、身体拘束の事案があった場合に、サービス提供表などに記載することにしている。	
	㊷	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	20%	80%	0%	現在、医師の指示書がある利用者はいない。 利用開始時のアセスメント時に保護者に有無を確認しており、現時点では該当者はいないが、料理体験時には、その都度食材を明記し確認をしている。	
	㊸	ヒアリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	40%	40%	20%	ヒヤリハットを提出し、適宜共有をしている。 事例集は作成していない。	